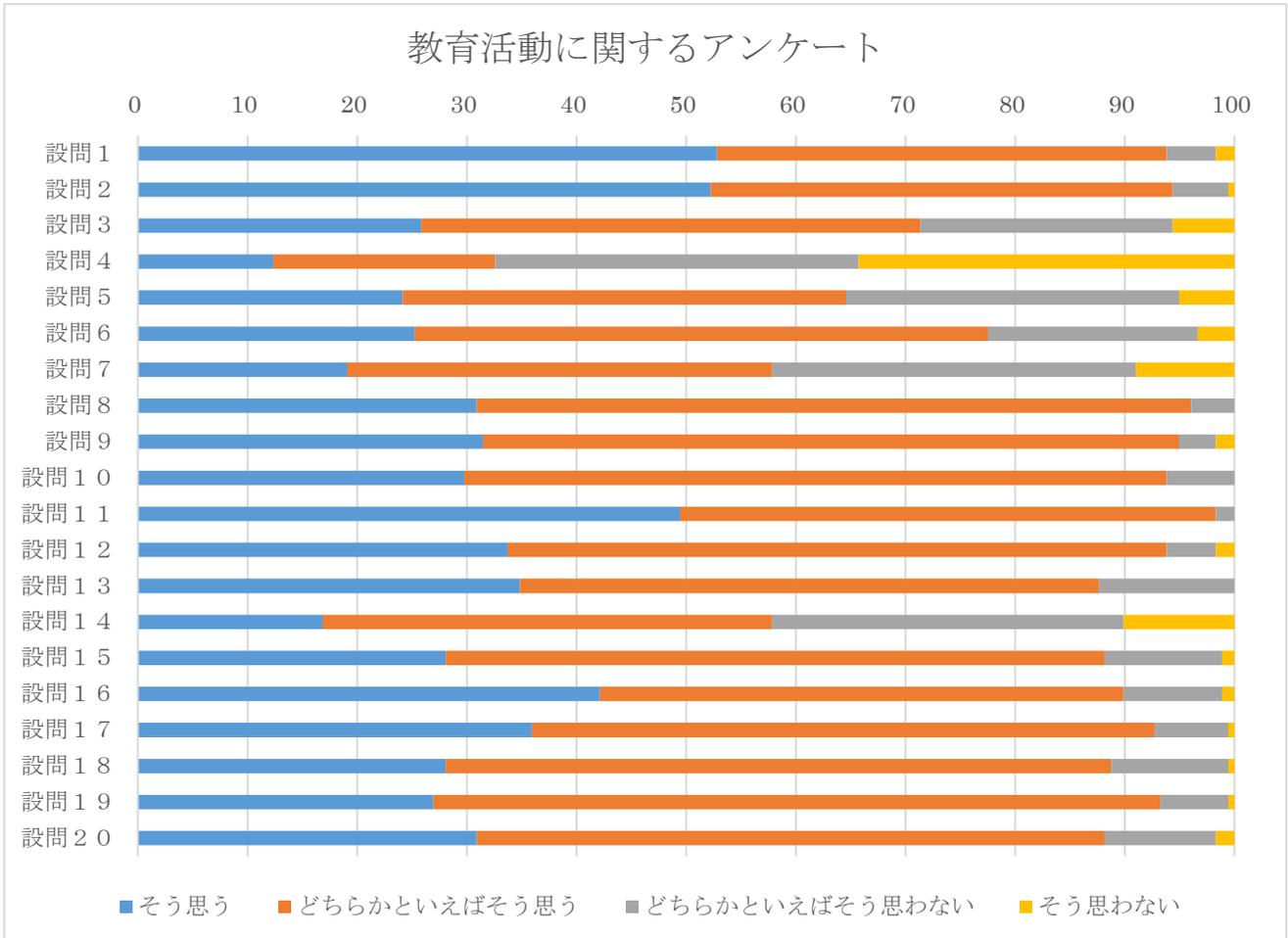


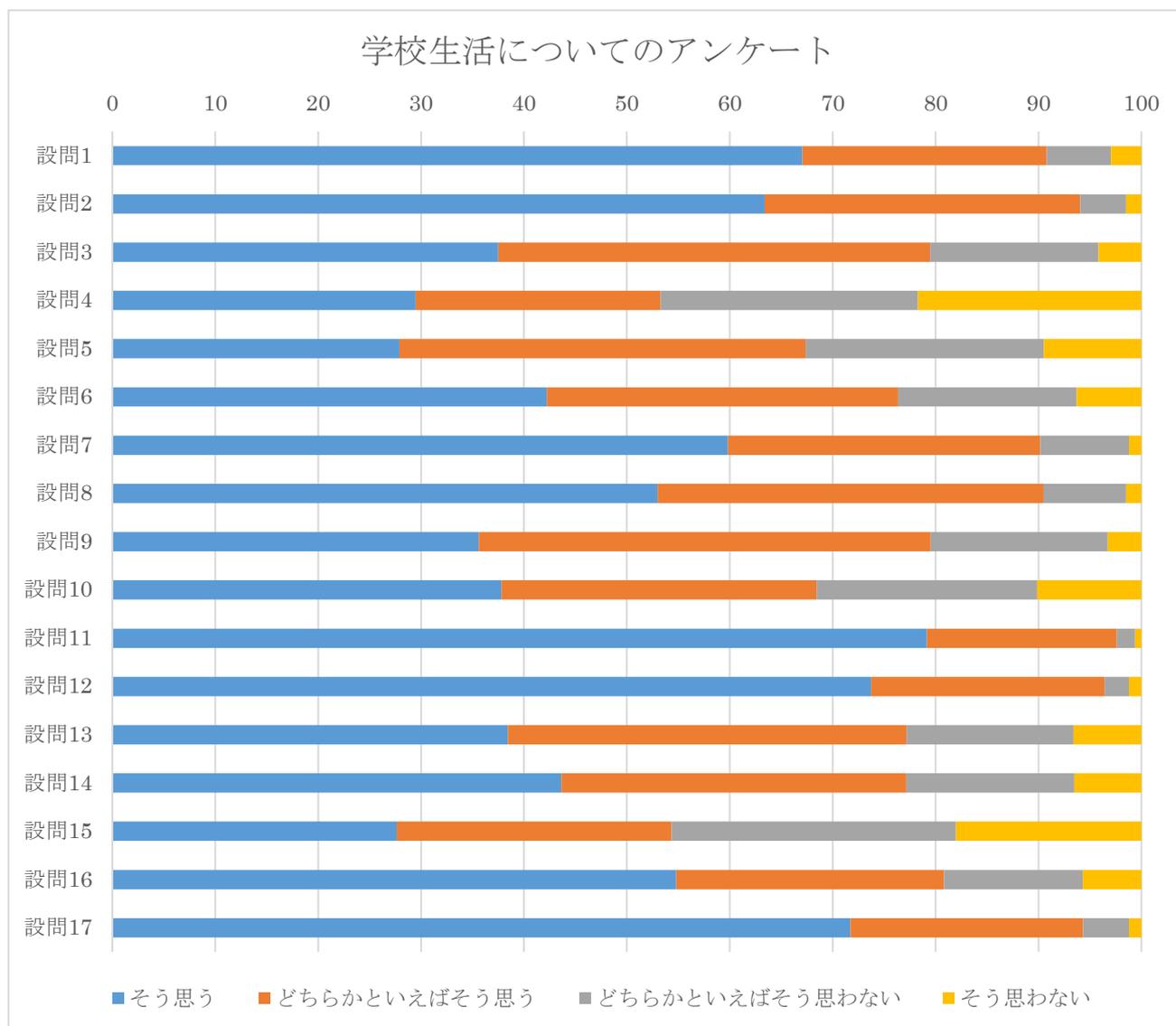
保護者の皆様には1月に実施した教育活動に関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集約した結果をご紹介します。いただいた貴重なご意見を今後の学校の教育活動に生かしていきます。

【アンケートの結果】（保護者）



- 設問 1 お子さんは楽しく学校に通っている。
- 設問 2 お子さんは友達となかよく過ごしている。
- 設問 3 お子さんは意欲的に学習に取り組んでいる。
- 設問 4 お子さんは家庭ですすんで本を読んでいる。
- 設問 5 お子さんは早寝・早起きができる。
- 設問 6 お子さんは家庭でバランスよくごはんを食べている。
- 設問 7 お子さんは家庭での学習の習慣が身についている。
- 設問 8 学校はルールを守り、はじめのある行動がとれる子どもを育てている。
- 設問 9 学校は子どもたちが先生や友達の話の聴いて、しっかり考える授業づくりに努めている。
- 設問 10 学校は授業や「お話タイム」などを通して、人の話を聴いたり、自分の思いを話したりする活動の充実に向けて取り組んでいる。
- 設問 11 学校は避難訓練をはじめとし、常に子どもの安全を考えている。
- 設問 12 学校は交通ルールなどのきまりを守り、「自分の命は自分で守る」ことのできる子どもを育てている。
- 設問 13 学校は教育方針や子どもたちの教育活動の様子を、学校新聞・学年通信・ホームページなどで、よくわかるように伝えている。
- 設問 14 学校は学校や地域の人たちにすすんであいさつできる子どもを育てている。
- 設問 15 学校は「朝の読書」や授業、休み時間などを使い、読書指導を積極的に行っている。
- 設問 16 先生は子どものよさを認め、伸ばそうとしている。
- 設問 17 先生は授業をわかりやすくするための工夫をしている。
- 設問 18 学校は、子どもたちに知識や技能、自分で考え実行する力などを育てている。
- 設問 19 学校は、子どもたちに他人と協調し、思いやる心や感動する心を育てている。
- 設問 20 学校は、子どもたちに必要な体力や、健康に気をつけて生活する意識を育てている。

【アンケートの結果】（児童）



- 設問 1 学校は楽しい。
- 設問 2 友だちと協力して仲よく過ごしている。
- 設問 3 すすんで学習している。
- 設問 4 家で本を読んでいる。
- 設問 5 いつも早寝、早起きをしている。
- 設問 6 ごはんは、好ききらいなく食べている。
- 設問 7 家で宿題や勉強をきちんとしている。
- 設問 8 きまりや約束を守っている。
- 設問 9 話をよく聞いて、考えたり意見を言ったりしている。
- 設問 10 お話しタイムや授業で発言している。
- 設問 11 避難訓練に真剣に取り組めた。
- 設問 12 交通ルールやマナーを守っている
- 設問 13 学級通信や学年通信を読んでいる。
- 設問 14 学校の行き帰りなどに、地域の人にすすんであいさつをしている。
- 設問 15 学校で本をたくさん読んでいる。
- 設問 16 授業で褒められてうれしかった時がある。
- 設問 17 先生は、わかりやすく教えてくれる。

(ご意見・ご要望)

※今回は、個人に関わるような文章もありました。また、ご指摘の点についての回答が長くなったため、要望事項やご意見を整理し、集約して（もしくは敬体を常体に変えて）記載しております。詳細について確認されたいかたは、直接学校へお問い合わせください。

【行事について】

- 1 マラソン大会廃止に反対。マラソンは心身ともに鍛えられる。マラソンは心肺も鍛えることができる。楽しみにしていた子が残念がっていた。（複数）

↓↓↓

廃止にした経緯、その後の対応について十分な説明をしないままでしたこととお詫び申し上げます。概ね次のような理由で変更をいたしました。

現行の学習指導要領では、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現すること」を大きなねらいのひとつに掲げています。持久力を高めるスポーツであれば、将来的に、ジョギングやウォーキング、スイミングでゆっくりと長く泳ぐといったものがイメージできるかと思います。また、走るのが好きな人や得意な人なら、マラソンや駅伝の大会に出て、記録に挑戦することもあるでしょう。取り組み方は人それぞれですが、そうしたスポーツに取り組もうとする意欲や基礎的な体力・能力は小学校から培うべきものの一つであります。

現行の指導要領では、持久走は必須種目ではなく、明記されていません。高学年を例にとると、「動きを持続する能力を高めるための運動をすること」とのみ記されています。持久走は、指導要領解説編に、例示として次のように挙げられているのみです。

「無理のない速さで（低学年：2～3分程度 中学年：3～4分 高学年：5～6分）走る」

ここでいう「無理のない速さ」というのは、一般的に「子どもが苦痛を感じずに、会話ができる程度のペースで走り続けられる速さ」とされています。有識な体育指導者は、持久走を取り上げる場合、テンポの合うBGMを流す、逆方向に走る子とすれ違ったときにハイタッチをする…といったように、楽しんで走ることができる工夫を推奨しています。つまり、現行の体育教育では、持久走は「体力向上」だけでなく、「楽しんで取り組む」ことを重視しています。これは、嫌いにさせないことが生涯スポーツに親しむ意欲や態度につながると考えるためです。

これまで行われてきた持久走大会は、昭和の時代に持久走が「陸上競技領域」に位置付けられ、記録の短縮や距離の伸び、競走の楽しさを味わうことをねらいとしていた取り組みの一環です。もちろん、この行事をとおして、真剣に取り組む、がんばる姿、記録や順位に一喜一憂する姿にたくましい心の成長や体力向上が見られ、教育的な意義を感じて取り組んできました。しかし、その一方で問題点も挙げられてきました。

- ・寒い時期の実施に苦痛を感じ、マラソン嫌い・体育嫌いを生む。昨今では、耐寒駆け足や持久走大会にさまざまな理由から見学や欠席をする場合が増えているのも悩みのひとつ。
- ・長距離は記録短縮を過度に求めると、心身ともに苦痛を伴う。応援は励みになる一方で、運動嫌いな子にとっては能力差等が長い時間多くの目にさらされることになり、これもマラソン嫌い・運動嫌いを増長させている。

これらを踏まえて、さまざまな学校が持久走大会のもち方を変えています。市内で言えば、順位等をつけず、ただ走ることを楽しむランフェス、記録会のみ、競走 or 完走で距離などを変えたコースを用意し、中高学年は選択性にする、休み時間の耐寒駆け足は止めて大会のみ実施…といったぐあいです。他県や他市でも、廃止や実施方法の改善が積極的に行われるようになってきています。本校でも、「現行の指導要領に沿うべきでは」といった声が以前から上がっていました。長寿命化工事に伴って運動場の広さが変わり、以前と同じ距離のコース取りが難しくなったことをきっかけに見直しを図ることになりました。また、教員の働き方改革や子どものゆとり時間の確保も理由のひとつです。

- ・耐寒駆け足期間は朝早く職員が出勤してコースの準備をする必要がある。（夜間開放もあるため、学年団ごとに走るコースのラインを毎日引き直す、カラーコーンを設置するなど）
- ・その期間は日課表を変更している。一部40分授業とし、午前中の長い休み時間に走り、3時間目に入る。子どもたちが休憩をしたり遊んだりできる時間の確保ができていない。
- ・校外をコースにする場合、各関係機関への申請処理や交通安全面での配慮、移動時間等の確保が必要である（運動公園は工事のために7年度は使用不可）

大会の取り組み方を変えた学校にメリットデメリットを聞き、体育専門の中学校校長に相談

をしてさまざまな点から検討した結果、大会の継続や改善は本校の教育活動の中で優先順位が低いと判断しました。しかし、学習指導要領をふまえ、子どもたちの持久力を高めることは必須です。そこで、次のようにしました。

- 持久走は、各自が適切に自己の目標設定をして走れるように配慮し、冬場を中心に体育時に取り組む。特に、高学年では、中学校の体力テスト（*）に向けた体力づくりを意識する。
*20mシャトルランか持久走（男子 1500m・女子 1000m）のいずれかを選択して実施
- 運動場のコースロープを利用して走る。（一度に走るのが学年や学級の人数のみなので、各学年団のコースを設ける必要がない。老朽化していたロープ張替を業者に依頼し、実施）
- 持久力を養う運動として、全校で通年の縄跳び運動に取り組む。
（学校HP「R7度 日々の記録」でも触れております。ご一読いただければ幸いです）

体育館に空調設備が整備される計画であることや運動会に全校縄跳び運動を取り入れていることも縄跳びを選んだ理由のひとつです。持久走は冬の一定期間だけでしたが、縄跳びなら授業でも休み時間でもご家庭でも長期間にわたって取り組むことができ、個々が自分に合った目標設定がしやすいといったメリットもあると考えました。行事が重なる時期や、他の領域（マットや跳び箱など）の体育時には思うように実施できないという反省点もありますが、異学年で一緒に練習に励んだり、長期休業中に家で練習してできるようになった技を披露する子が何人もいたりとしつづつ成果も感じています。豊橋市教委のなわとびランキングも今年度始まりましたので、他校の記録なども今後目標にしていけるかと思えます。持久走については、全校で行う大会は取りやめましたが、授業内にまとめとして記録会を行った学年もありました。共通認識で確実に取り組めるよう、来年度実施に向けての改善案を現在、話し合っています。耐寒駆け足をやめた期間は、休み時間等にもゆとりができ、6年生は修学旅行に向けてしっかりと準備をして楽しいイベントを実施していました。体育時・やまもも班活動などでは、タグラグビーやしっぽ取り、鬼ごっこ、長縄跳びなど、さまざまな運動をとおして持久力向上を図っています。上位入賞や記録更新を目標に大会を楽しみにしていた子、保護者の皆様の前で走る機会をなくしてしまったことは申し訳なく思います。よりよい体力づくりの場を模索して尽力してまいりますので、ご理解いただければと思います。

- 2 運動会の演目変更が残念。ダンスやフラッグ、代表リレーなどがなくなった。入退場も変わった。見ごたえがなくなった。（複数）

↓↓↓

入退場について

昨年度、運動会終了後の片付けの際、入退場門が地面に埋めた丸枠内に埋まって取り出せなくなり、数時間かかってようやく外すことができました。丸太の棒自体もかなり老朽化しており危険なため破棄をすることとし、それに伴って入退場門の設置を取り止めました。

入退場について

昨年度、開会式はその場に整列してからの開始としました。（開閉会式ではそのような対応をする学校が増えています）スムーズに行えたこともあり、本年度はその他の競技でも応援席からの移動としました。安全面を考慮して歩かせましたが、もう少しきびきびと移動させたいという反省は職員からも出ています。次年度は音楽をかけるなどして、てきぱきと動けるよう、移動の仕方を改善し、支援と指導をしていく予定です。

種目について

昭和や平成の頃は、行事として運動会らしい種目が並び、午後まで実施をしていましたが、昨今は午前中だけの開催となる学校が増え、名称も「運動フェスティバル」等に変え、趣旨も日頃の体育で行っている内容の発表の場というのが主流になりつつあります。少子化に伴い、正規の職員数が減っていることも実施内容の削減の理由のひとつになっているように思います。表現種目は練習時間の確保が多く必要となります。6年度は高学年のフラッグを1学期から始めて夏休み中も練習できるようにしましたが、練習の時間に14時間（プラス各学級等で自主練習をした時間）を費やし、体育の他の領域や他教科の授業時間に影響が出ました。また、専科や非常勤が担う授業も増え、時間割の変更等が難しくなり、学年団や全校揃った練習時間の確保に苦心しています。その反省のもと、無理のない練習時間で取り組めるように職員で話し合ってみ直しを図りました。応援合戦などは復活させましたが、表現等を減らしたため、競争種目だけでは見ごたえに欠けるというご意見も理解できます。表現活動は低学年

ではリズムダンス、高学年に上がるにつれて「即興性」「自由性」が重視されるカリキュラムになっていますので、1・2年の玉入れ入場にはダンスを残しました。中学年や高学年も豊の子は踊ることは大好きという子が多いようです。無理のない範囲で取り入れていける策や運動会以外のところでご披露できるような場を検討することも考えていくとよいかと思っております。(今年度は、3学期に低・中学年が6年生を送る会で楽しいダンスを披露していました)また、今年度より取り入れたやまもも班競技も、全校での練習となるため時間確保の問題、また運動量の確保などが課題に出ており、よりよい方法を検討していく予定です。来年度はプールの授業も秋にあるため、練習時間の確保が今年度以上に厳しくなる見込みです。今後も継続していけるような行事のもちかた等を検討していきます。

【学習面について】

1 漢字や計算コンクール

- ・ドリルからの出題(練習プリントなし)は子どもも保護者も負担が大きい
- ・合格点を下げるより、100点を取れるようにするほうが自己肯定感を上げられるのでは
- ・追試もなくなった。ただやるだけでは意味がない。やりかたを変えることもやむを得ない。
- ・定期的な習熟テストも含め、日々、積み重ねができるような指導をお願いしたい。
- ・今年からより一層仲間と競い合ったり、順位争いをしたりする体験が減ったように感じる。小学校の6年間のうちで切磋琢磨し合う経験が少ないと先行きが心配。高学年だけでも中学への準備期間として、くりかえし学習する課題を出したり、追試験を行うなど、学力の底上げをはかった方がよいのでは。厳しい言い方ですが、学力にしても運動にしても点数や順位がある程度わからないと、子ども自身も自分の立ち位置がわからないと思う。

↓↓↓

追試について

授業時間内や授業後(居残り)での実施ができないため、ここ数年は、長い休み時間に不合格の子を特別教室に集め、教務主任が監督や管理を行い、実施後に担任が採点を行うといった分業で取り組んできました。そのため、何度も行うことは難しく、回数を制限せざるを得ませんでした。また、数の概念理解や識字に困難を抱えるお子さんも増えていることから、過度な追試等は苦手意識を増長させ、漢字嫌い・計算嫌いをつくる原因になっていることを否定できません。

こうしたことを踏まえ、今年度は追試を行わないこととしました。

練習プリントについて

効果的な練習の仕方、苦手な字・書けない字は子どもによってまちまちです。計算も然りです。どの子にも同一のプリントを課題とすると、「宿題をやって出す」ことが目的やゴールになりやすく、練習量のわりには定着度が低いという子も少なくありません。しっかりと取り組んでいる場合でも、出題順や熟語、数字が変わるとできないといったことが起きがちでした。問題数を制限すれば、もちろん合格者は増えますが、コンクール合格から間もない時期に教科のまとめテストをすると、熟語や数字、出題の仕方等が違うためか解けないという実態があり、コンクールによって基礎学力が定着したとは言い切れないことがジレンマでした。「できている部分・まだ十分でない部分」を個々の子どもが意識し、できることを増やすために練習をする」ということを自覚できるように、現在は次のような取り組み方をしています。

- コンクールは行うが、画一的なプリント学習は行わない。(厳密ではなく、発達段階や習熟の様子を見て、プリント等を作成し、使用している学年もある)
- コンクール前の1・2週間ほどは、学習強化の期間と捉え、朝の帯の時間をチャレンジタイムに設定し、個人学習を行う。子どもたちはそれぞれ、苦手な問題、まちがいの多い問題を中心に復習する。(学年・学級によってはこの時間に確かめのミニテストを行う場合もある)

現状では、学年や学級によって取り組みに温度差があるのも正直なところです。来年度以降は、いよいよ新しいタブレットでの学習アプリ活用が実動可能となります。ICTの(個に合った出題や採点等が可能な)機能と紙媒体(ドリルやミニテストなど)による学習をうまく組み合わせ、より主体的に取り組めるようにしていきたいと思っております。発達段階を踏まえ、個々の子どもたちがより自分の実態に即して学習をすすめ、定着が図れるように尽力いたします。漢字・計算だけでなく、ローマ字やアルファベット、県名、タイピングスキルなども定着させたい学習です。朝の活動を有効活用するなどして取り組んでいきます。

2 授業での取り組み、長期休業中の課題について

- ・授業の取り組みにバラツキがあるように感じた。各担任の方針はあるだろうが、統一したほうがよいこともあるのでは。
- ・長期休業中の課題が少なく、学力低下が心配 親の負担が大きい

↓↓↓

ばらつきについて

できるだけ2クラスの担任同士で情報共有し、同じ歩調で授業を進めるように努力していますが、経験年数、研修等で重点的に取り組む教科が違うといったことが影響し、うまく歩調がそろわないことがあるのが現状です。ご指摘があったものについては統一して行うべき活動でした。不十分な点についてはお詫び申し上げます。もう一方のクラスは別の教科で工夫をした実践をし、子どもたちがとても楽しんで授業に取り組んでおりました。その点についてはお伝えしておきたいと思います。いろんな個性をもった集団として凸凹を補い合い、ベテランはベテランの持ち味、若手は若手の持ち味を生かし、教職員みんなで豊の子を育てていきたいと考えます。至らない点は多々ありますが、今後も努力してまいります。

長期休業中の課題について

年に数人ではありますが、県内外の先進校へ視察や参観に行つて研修をしております。今求められる学力観や、全国的な取り組みの実態について情報収集する中で、「主体的に考え、自ら学ぶ力」を育てるため、探究型の学びを重視することが何より大切であり、いちばんの課題だと捉え、教員研修に取り組んできました。検討をする中で、当たり前のように行ってきたことの価値を今一度問い直し、リセットすることが必要なのでは…と捉え、第一歩として、長期休業中の課題を見直すことになりました。5年度に、冬休みの課題をなくすことから始めたと聞いています。昨年度は夏休みの課題を見直し、1年生以外は日誌をやめ、漢字や計算のプリント、ドリル等のおさらいを出すのみとしました。「開拓の授業」が始まる3年生以上は、指定の課題を減らした分、自分で考えて取り組むとよい学習例を示すなど、発達段階に応じて支援をしました。また、自由研究やポスター、習字などの作品募集については、一部を除き自由応募としました。

ただ、課題を減らしただけでは自分なりに取り組もうという意識はなかなか育ちません。そこで、今年度は課題を減らすだけでなく、「主体性や探究心を育むアプローチとして、自分の好きなことや探究的な学びに取り組んでみようと思えるようなしなやかな工夫してほしい」と職員にお願いをしました。また、自分で考えて取り組むという経験も意図的に仕組む必要があります。そこで職員が考えたのが、今年度の夏休みに出した「夏休みチャレンジ」です。長い休みだから、いつもより時間にゆとりがあるからこそできること・やってみたいこと・できるようにしたいことなどを自分で決めて挑戦する取り組みです。休み前に計画を立て、休み明けに各学級で実践報告会をしました。また、6年生は、日頃から取り組んでいる生活の計画表を夏休みも取り入れ、自分で何をどれだけやるかを決めて実施するという試みもしました。

以前は、夏休み中もプールや部活動で何度も来校する機会がありました。出校日も複数回行う学校が多かったと思います。そのようなときは、サマースクールを開いて日誌や課題のサポートをしたり、進めたところまでの丸つけや答え合わせを出校日に行ったりすることができました。しかし、今は夏休み期間中、全く顔をあわせることがない子も少なくありません。長期休みの過ごし方も多様になってきました。学校ができるサポートも限られてきています。今後も、低学年はある程度決められた課題が必要だと思っておりますが、中・高学年では、自分で計画を立てたり、取り組むことを決めたりするための支援を重視していきたいと考えています。開拓の学習で取り組んでいることや2学期の学習・行事に向けて自分ができることを考えて取り組むような課題です。例えば、5年生であれば、野外活動に向けて自分で考えた取り組みで準備をする（カレー作りをする、家族でキャンプに出かけた際に火おこしに挑戦するなど）、6年生であれば、2学期以降の歴史や国語の学習に備えて戦争や平和について調べる…といった具合です。取り組む内容や量はご家庭の事情や本人の意志で決めていけるとよいです。そうした機会をつくったり、子どもたちの相談に乗っていただければありがたいです。漢字や計算等の復習については、上の学年では今年度の6年生の取り組みのように、自分で計画を立て、実行するスタイルとし、中学年では取り組む内容例を具体的に示すといった支援をしていければと思っております。

日常の学校生活では、ご家庭でも机に向かって復習などをする習慣をつけていくように、音読や漢字、計算等を出しています。中高学年では自分で内容を選ぶ自主学習も段階的に取り入れています。今後は、「宿題」というよりも「家庭学習」として、タブレット端末もうまく利用しながら、より主体性のあるもの、選択肢のあるものにしていければと思っております。ゲームやテレ

び番組、動画配信等、家では誘惑が多いことでしょう。お子さんとよく話し合い、「ながら」の学習にならないように時間や場所を決め、ご家庭に合った習慣づけをお願いいたします。

【子どもたちへの指導・声かけ等について】

- ・こんなに子供の成長が変わるんだと思いました。担任の先生には感謝しかない。
- ・いつも子供たちのことを考え、親身になってくれる先生方には感謝しかありません。
- ・外部講師授業を増やしてみるのはいかがでしょうか。
- ・放課に活動することがあるようだが、しっかりと休み、遊びに使ってほしい。先生が机を蹴って怒ったり、問題を起こした子供に対し、不適切な発言があったと他の保護者から聞いた。大勢をまとめるのは大変で、時には厳しさは必要だが、威圧的・感情的な発言は子供にしないでほしい。
- ・先生方が大変な中いろいろ工夫して授業をして下さっていると思うが、授業が騒がしくて大人しく真面目に取り組んでる生徒がづらい気持ちでいる事をもう少し配慮して頂けたら。難しい年頃で授業中の騒がしさだけが辛い理由ではないと思うが、笑顔で通えるような学校であってほしい。

↓↓↓

温かいお言葉をありがとうございます。また不適切な対応がありましたこととお詫び申し上げます。ご指摘の点については職員で共有し、気をひきしめて子どもたちの指導にあたるよう、再確認をいたしました。再発防止に努めます。気になることがありましたら、メールやお電話でもかまいませんので、できるだけ早い段階で遠慮なくお申し出いただけますよう、お願いいたします。

また、外部講師の招聘や出前授業等はできるだけ積極的に行っております。地域で新たにご協力いただけるようなものがありましたら、ぜひお知らせください。次年度は、バイオリニストを呼んでの演奏会、高学年での理科実験講座なども新たに予定しております。来年度は、可能なかぎりご案内をいたしますので、ご参観いただける場合はぜひ学校へお越しください。

休み時間の過ごし方について

特に高学年では、委員会や行事等の仕事で休み時間がつぶれてしまうことも少なくありません。次年度は、朝の活動の時間の使い道を時期や行事を配慮して計画し、できるだけそのようなことがないように改善していきたいと考えております。

- ・インフルエンザ学級閉鎖及び学年閉鎖の連絡メールを全学年生徒保護者宛に送るようにして頂きたいです。(通学団集合場所にて低学年の子が学級閉鎖中の子を待つ事態がありましたので)
- ・クラスごとに先生と親の LINE グループを作成し、情報を提供して欲しい。
- ・学年通信と学級通信があるが、クラスが違って持ち物や学習内容は大きく変わらないのであれば、先生方の負担を考え学年通信のみにしても良いのではないかと感じた。

↓↓↓

学級閉鎖時の連絡不徹底があり、ご迷惑をおかけしました。ご意見をいただいて以降は、全校配信といたしました。

不祥事防止の観点から、教員と保護者が個人的なつながりをもつ恐れのある SNS 等の利用はいたしかねます。今後も学校メール等で配信をしますので、ご理解ください。

通信につきましては、教員の負担軽減についてご考慮いただき、ありがたく思います。今年度は、今まで各学年で通信に載せていた月予定や下校時刻を全校一斉のメールにさせていただきました。業務の見直しを図り、教材研究等の授業準備や子どもたちとの直接的な関わりにもっと時間が割けるよう尽力してまいります。

貴重なご意見ありがとうございました。回答が遅くなり、申し訳ありません。日々の学校の様子は HP「日々の様子」にて随時発信しておりますので、ぜひごらんください。